

海のおもいで創造プロジェクト（海と日本2021） 実施報告書

1.プロジェクト概要

2.プロジェクトの総括・今後の展望

3.補足資料

- 3.1 連携団体紹介
- 3.2 当日の受入体制
- 3.3 プログラム内容紹介
- 3.4 イベントアンケート結果
- 3.5 波及活動
- 3.6 制作および製作物
- 3.7 WEBリニューアル

■ 海のおもいで創造プロジェクトとは

海へ連れて行く保護者の負担が大きな原因となり、近年子どもたちの海離れが加速しています。加えて、そうした子どもたちは幼い時に海の思い出がないため、大人になっても海を訪れないという負の連鎖が生じています。本プロジェクトは、こうした状況に楔を打つために、教育機関（主に民間学童）・ライフセーバー事業者と連携することで、子どもたちが保護者に依存することなく安全に楽しく海を体験できるスキームを構築し、たくさんの子どもたちに海で楽しい思い出を創ってもらうための活動を推進します。

◆ 実施概要

- ・新規連携先開拓 : 新規学童の開拓、昨年度コロナ影響により見送りとなった学童へのアプローチ等
- ・現地受入先調整 : 規模拡大に伴う、現地受入先の再調整
- ・体験プログラム内容の強化・改善 : 規模拡大に伴う、プログラム内容の調整および2020年度を踏まえた内容改善
- ・プログラム運営力の強化 : 規模拡大に伴う連携学童の受入、プログラム実施体制等の強化
- ・メディア等の波及連携 : 映像・レポート等の展開、展覧会、WEB等での情報発信等

◆ 目 標

▷ 定性目標

- ・連携先の輪を更に広げ受入体制等を強化し、ひとりでも多くの子どもたちに海体験を届けるための取組を実現する。
- ・取組内容を広く波及していくため、各連携先のメディアによる情報発信等を行い認知の輪を拡大する。

▷ 定量目標

- ・連携学童数 : 25学童
- ・参加児童数 : 600名

2.プロジェクトの総括と今後の展望



■プロジェクトの総括

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大等の影響に見舞われたものの、プログラムの強化や受入体制の整備、学童等の団体へのアプローチや、プロジェクトの意義等に関する説明活動等の結果、**プロジェクト賛同学童数は30団体（対前年で10団体増）、参加希望者669人（新型コロナ感染拡大等の影響で直前に中止せざるを得ない事象もあり最終実績は481名）**となり、昨年度に比べて大幅にプロジェクト規模を拡大することができました。

なお、初年度は連携団体および保護者の海に対する懸念・抵抗感が強く実施に至るまでのハードルが高い印象でしたが、今年度は初年度の実績が信頼や安心材料となり、より多くの賛同団体を獲得することにつながったと認識しています。また、人数規模に応じたプログラム内容等（ex. 2学童同日実施体制の整備、ボード体験等のアップデート、雨の日専用コンテンツの開発等）の強化を図り、地元事業者と柔軟に調整することができました。その結果、**参加規模数が拡大した状況の中で、参加者等から本プログラムについて高い評価（*参加者アンケート：楽しかった＝約99% ※p.9~12 参照）**を継続的に得ることができました。

くわえて、取組内容の波及活動においては、一定数の連携学童・ライフガード事業者・外部メディア等の協力を得られ、WEB媒体などを中心に本プロジェクトの取組内容を発信することができました。

◆プロジェクト実績

▷ 定量実績

- ・賛同学童数：30学童
- ・参加希望者：669人（最終実績 481人※）

※新型コロナ感染拡大等の影響で直前に中止せざるを得ない事象が生じたため、参加者実績は481人

＜前年度実績＞ ※参考用
・賛同学童数：20学童
・参加者数： 192人 +(室内イベント84人)

▷ 定性実績

- ・連携先拡大および受入体制の強化を実施 ※p.6~8 参照
-学童等へのアプローチ・受入事業者との調整によるプログラム強化等
- ・各事業者のメディア連携等による取組内容の波及活動
-連携先の学童が管理するWEB等の連携 ※ p.13 参照
-ライフガード事業者連携による展覧会の実施 ※ p.14 参照
-複数の外部メディア等との連携による取組発信 ※ p.15~17 参照

2.プロジェクトの総括と今後の展望

■ 今後の展望

当該プロジェクトでは2年間にわたって保護者都合で海へ行く機会の少なく海離れの進む子どもたちのため、私立の民間学童および現地のライフセーバー事業者等と連携し、海体験を提供してまいりました。

取組みスタート時においては、海での体験活動自体が多くの教育機関から敬遠される傾向にあったことから、教育的充実度の高い取組みの有意義性を見出しただけの可能性の高い民間学童に着眼し、活動意義の啓蒙およびプログラム参加への提案活動を行いました。

また、これに沿って有意義性の高い体験内容を担保するため、専門知識が豊富なライフセーバーや地域事業者等と連携し、万全な安全管理体制と教育的視点でも充実したプログラムを開発、実践することで、子どもたちに充実した海体験を届け、継続的な取組みの拡大にも成功しました。

一方で、現段階での参加者は民間学童所属という特定の限定層にとどまっており、その他の層に属する子どもたちにアプローチできていないことを課題としてとらえています。

これまでの成功実績によりプロジェクト発足当時とは異なり、民間学童以外の教育機関への説得力も強化されていることから、今後はこれらの改善を企図し、より広範な子どもたちに区別なく海体験の機会を提供するために小学校を連携先として巻き込み、小学校行事の一環として、クラス全体・学年全体を対象した活動を推進していきたいと考えます。

◆ 小学校連携を見据えた施策

① 継続的に学童連携のプログラムを強化し、海体験の有用性や安全管理の方法等を体系化

本取組が小学校のイベント行事として受け入れてもらうために、継続して学童連携のプログラムを強化していくとともに、海体験の有用性や安全管理の方法等を更に体系化し説得力を強化してまいります。

② 体系化した情報（海体験の有用性・安全管理の方法等）を自治体・教育委員会等へのアプローチ

学童連携のプログラムで体系化された情報を、自治体や教育委員会等へアプローチし、小学校教員等を対象に体験プログラムの見学案内を実施することで、次年度以降の体験提供を見据えた足掛かりを築きます。

3.1 補足資料 -連携団体紹介-



▽連携団体リスト

全15日程・約500人・37教室の学童（東京・神奈川）が参加しました。

※当初は20日程を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大・荒天の影響により辞退する学童もいました。

日程	参加学童名	参加人数
7月26日	ウイズダムアカデミー(市ヶ谷・飯田橋校)	21
7月28日	こども未来プロジェクト(恵比寿校)	10
7月29日	NPOアフタースクール(聖学院・農大稲花)	25
	キンダリーインターナショナル(勝どき月島校・豊洲校・明石日本橋校)	11
7月30日	キッズビジョン(門前仲町校)	39
8月2日	ZIPPY KIDS (荒川・上野・文京校)	34
8月3日	キンダリーインターナショナル(勝どき月島校・豊洲校・明石日本橋校)	18
	フューチャーテーブル (中川・センター南・センター北・都築ふれあいの丘・平台・仲町台・THE BULLPEN)	20
8月4日	学研ココファンキッズ (八王子校)	16
	あさひキッズクラブ	25
8月5日	キッズビジョン(日本橋浜町校)	42
8月12日	プラススポーツ (北千住校)	41
8月16日	晴れ間(2回目)	9
	ヒューマンアカデミー (大井町校)	19
8月17日	トレスター (塚越・川崎校)	39
8月18日	モコプラ	33
8月19日	ウイズダムアカデミー(恵比寿校)	17
8月20日	こども未来プロジェクト(恵比寿校)	2
	NPOアフタースクール(湘南学園・聖学院)	23
8月23日	明光キッズ (石神井公園校・練馬校・光が丘校・葛西校・富士見台校)	37
合計		481

3.2 補足資料 -当日の受入体制-

受入人数は前年度の倍以上となり、非常に多くの子どもたちへ海体験を届けることができました。
1日に2つの学童を受け入れ、合計40名以上の子どもが参加する日程もありました。
(前年度：1学童20名以下の受入体制)



3.3 補足資料 -プログラム内容紹介-

地元事業者との連携および調整を行い、昨年度よりも多くの子どもたちが海を楽しく多面的に学べるプログラムを構築しました。海が初めて・慣れていない子や海に慣れている子を含め、全体として満足度の高いプログラム内容を実現しました。

①海に触れる・慣れる



海がしょっぱいこと、砂を掘ると海水が湧き出てくることなど、海の不思議を体感します。

②海を歩く・浮いてみる



ライフセーバーによる「海で速く走る方法」や「ライフジャケットの正しい着脱方法」を学びます。

③海の様々な課題を知る(安全管理や海ごみ等)



人が溺れているときは自分で助けず、必ず周りの大人に頼ることや、カツオノエボシ・ミズクラゲの見分け方。プラゴミにより、誤飲誤食で命が奪われる生き物について認識します。

④海を楽しむ



最後は安全管理のもと、ボード体験を通して海を全身で楽しみます。段階を踏んでいくことで、初めての子でも楽しくボードに乗ることができます。

⑤海の思い出をアウトプットする



最後は、学んだことを振り返るためのテキストを解き、海のおもいでを自由に描いてプログラムは終了となります。

3.4 補足資料 -イベントアンケート結果-

▽子ども向けアンケート「楽しかった！」が **約99%** (N=457人※未回答、回答離脱を除いた人数)

多くの回答は、「海が恐かったけど克服できた」・「海に入れるようになって楽しくなった」もしくは「海の大切さや自分達とのつながりを知れた」など総じて海への関心や興味を持てるようになった様子が伺える内容でした。

約70名の子どもたちが(本当の意味で)初の海を体験し楽しむことができていた結果は、本人たちの今後の海との付き合い方を変える大きな結果になったと考えています。

コメント

「海がこんなに、楽しくて優しいものということを知ることができて、気持ち良くて、とっても良い経験になったと思います」(小2)

「海はこんなに楽しいし、こんなにしょっぱいんだなと思った」(小1)

「海ではいつもの走り方だと遅いけど、足を挙げると速くなってすごかったです」(小1)

「海の大切さや、自分達とのつながりを知れた」(小3)

「ニッパーボードは波が来たら速くなるのが不思議で楽しかったです」(小2)

「海に入れるようになった。前は怖くて入れなかった。」(小2)

「プラスチックのゴミなどを捨てることで動物たちがどんどん死んでしまうから、できるだけプラスチックのゴミを減らそうと思いました」(小3)

「海が綺麗になるためにはポイ捨てをしない」(小1)

「満潮と引き潮で物凄く変わっていたのがびっくりした！」(小4)

3.4 補足資料 -イベントアンケート結果-

▽学童引率者のコメント (回答数：20名 ※各引率代表者)

すべての学童から肯定的なコメントが得られました。特に、「当初は海に不安を感じていた子どもたちがイベントを通じて海を楽しみ、苦手意識を克服できたこと」など、子ども達の変化に対する驚きと喜びのコメントを多くいただきました。

コメント

「始まる前は溺れたらどうしよう…できるかな?と不安な声もありましたが、海に寝る姿を見れたのは感動しました」

(朝日キッズクラブ)

「海の経験が少ない子どもが多く、不安の声が半数あった。アクティビティが進むにつれ、自ら海へ向かう子が増えた」

(ウイズダムアカデミー)

「道中、ネガティブな発言をする子が多かった。活動を通して、その発言をした子が笑顔で積極的に参加していた」

(キッズビジョン)

「バスの中では伝わって来なかったワクワク感でしたが海に入った瞬間子どもたちの笑顔がキラキラしていたのが印象的でした」

(明光キッズ)

「前回参加した子がとても楽しくてまたやりたいと再参加してくれた。実際に来て「もっと遊びたい!!」という声が多かった」

(聖学院アフタースクール)

「親御さんから金づちと伺っていましたが、全然大丈夫そうで、とても楽しそうでした!」

(子ども未来)

「海の水がしょっぱいと最初はネガティブイメージがあったが、海に入って少しすると「もっと遊びたかった」「波に乗れた!」と嬉しそう」

(学研ココファン)

「波に乗らせてもらったりして、とても楽しかったようです。まだ帰りたくないなどとさみしそうな子どももいました。」

(フューチャーテーブル)

「まだ海で遊びたいという声が多数聞かれました。保育の中では見られない表情が見られました。」

(ZIPPY KIDS) etc...

3.4 補足資料 -イベントアンケート結果-

▽学童引率者の海体験に対する心理および行動変容

①「海イベントの自主開催を検討したい」学童が増加

もともとは、参加学童のすべてが、安全面等の観点から海イベントの実施実績もなく、海イベントへの参加意欲も薄い状況でした。本プロジェクトへの参加後、「今後、海イベントの開催について前向き、積極的に検討したい」との考え方へと変化が見られました。

Q: 今後学童が海イベントを主催することに関して
(回答数：20教室)

- ・海イベントの開催について前向き、積極的に検討したい：80%
- ・検討したいがハードルが高そう：20%
- ・検討しない：0%

「検討したいがハードルが高そう」と答えた20%の団体が記載した理由は体制面(コロナ対策・対応人数・海の知識不足・費用)での不安によるとの意見であった。

②海イベントを自主開催した学童が出現

2年間を通して本プロジェクトに参加したりレポート学童から、今年度海体験を自主開催したとの報告を受けました。

初年度は多くの学童が海イベントに対する抵抗感を抱えていましたが、プログラムへの参加を通して、そのような抵抗感が徐々に解消されてきていることが明らかとなりました。

【事例】学童保育施設「晴れ間」が初めて海体験を主催！



(学童保育施設「晴れ間」 Facebook 投稿 より)

3.4 補足資料 -イベントアンケート結果-

▽保護者の感想

子どもたちが海での経験を通して、「海に対する恐怖心が薄れ、楽しい場所としてのイメージが構築されたこと」に加え、「親なしで今までできなかったことに挑戦した経験から精神・身体面において成長が見られた」等のコメントを頂きました。

コメント

「行きのバスに乗る前は緊張してガチガチでしたが、帰りのバスから降りてきたときは興奮でキラキラした表情でした。顔を見た瞬間に行かせてよかったと思いました！」

「これまでは海を怖がり苦手意識がありましたが、海は楽しいところだと感じたようです。ニッパーボードも最初は怖がっていましたが、やってみたらすごく楽しかったと言っていたのでチャレンジさせて良かったと思います。」

「海の波は好きでは無く、いつも波が無い湾などしか行きたがらなかったけれど、今日は、波を楽しめた様でした。後、ライフジャケットを着て、海に浮いてみた！と、親といる時は、怖がってできなかった事をたくさんやっていました！」

「ニッパーボードが面白かったようで、買って欲しいとせがまれました笑笑 ライフガードのみなさんが、しっかりケアしてくださったので、泳げない娘も楽しめたと言っていました。」

「親がいない環境でお友達と過ごせたことで、とても自信がついたように感じました。真っ黒に日焼けして帰ってきた姿を見た時は、少しお兄さんに見えました！」

「参加前は不安が大きかったのですが、参加後は、また来年もチャレンジする！と、自信がつき、に意欲的になったように感じます。」

「プログラムを通じて、海の抱える問題に意識が向いたようです。今後親子で海を守る活動に参加してみようかと話をしています。」

3.5 補足資料 -波及活動 (学童メディア連携) -



チラシ

WEB・SNS

3.5 補足資料 -波及活動（ライフガード事業者との連携）-

▽海のおもいで展覧会

総勢約500名の子どもたちが描いた作品を、鎌倉駅付近のスタジオに掲示
海イベントの有用性を想起してもらうこと & 取組の認知拡大を目的に保護者及び一般の方々へ作品を共有しました。



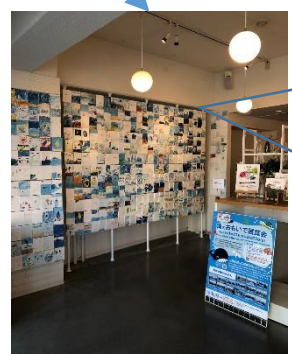
鎌倉駅から徒歩3分!



一般の方も
観覧OK!!



保護者の方にも
案内しました!



3.5 補足資料 -波及活動（外部メディア連携）-



2021年09月18日(土) BSテレビ東京

2021年09月13日(月) 日本海事新聞



去年の写真載せたら みんな行きたいとなっ



楽しかった!



海にいこーよ! 海のおもいで創造プロジェクト

おでかけ情報サイト【いこーよ】が企画運営
両親に代わりライフセーバーが安全を確保し子どもたちに海を体験させる

ソージャル・イノベーショナル

日本財団の挑戦

海のおもいで創造プロジェクト

「海のおもいで創造プロジェクト」は、21年の夏は、お出かけ情報サイトを運営する「いこーよ」と、明光キッズなど民間の学童保育機関や鎌倉ライフガードなどが連携し、子どもたちを学童単位で引導することで、保護者に依存することなく、安全に楽しく海を体験する仕組みを提供し、さらには、海難防止知識を持つライフセーバーが、海の知識や安全対策などを分かりやすく教えることで、今後に来た時に生かせる内容をふたに盛り込んでいる。

7〜8月にかけては、鎌倉・箱根川原の材木店「チビッパトボート」に、ライフセーバーが使用するスキューブボードの小さい版での波乗り体験や、私たちの生活と海のつながりを学ぶ海クイズを兼ねたプログラムを実施し、約500人が参加した。都市部に住む子どもたちの参加が多くなり、海に初めて来る子どももいる。

初めは海面に慣れるところを、なかつた子どもが、一日の終わりに「ボードに乗って波に乗る」という目標を、コロナ禍で子どもたちの体験機会が減少しているが、感覚対症に配慮しながら、海を身体で感じる機会となった。

参加した子どもたちは、以前は海が怖かったけれど、海が好むようになった。海と人とのつながりを知った。海は人々の生活に欠かせないものだ。知った。「来年も海に来たい」といった感想が寄せられ、体験を通じて、海と子どもの距離が縮まってきたのを感じた。

本プロジェクトは、子どもに海の体験をしてみたいと願うさまざまなライフセーバーが連携して実現したものであるが、パッケージ化されてさまざまな場所でも取り入れられれば、おどくのおどくが、子どもたちに海体験を届けることが可能となるだろう。「これから日本財団が随所となり、新たな取り組みを実施していきたい。」「本欄より一部転載します。」

「海のおもいで創造プロジェクト」は、21年の夏は、お出かけ情報サイトを運営する「いこーよ」と、明光キッズなど民間の学童保育機関や鎌倉ライフガードなどが連携し、子どもたちを学童単位で引導することで、保護者に依存することなく、安全に楽しく海を体験する仕組みを提供し、さらには、海難防止知識を持つライフセーバーが、海の知識や安全対策などを分かりやすく教えることで、今後に来た時に生かせる内容をふたに盛り込んでいる。

「海のおもいで創造プロジェクト」は、21年の夏は、お出かけ情報サイトを運営する「いこーよ」と、明光キッズなど民間の学童保育機関や鎌倉ライフガードなどが連携し、子どもたちを学童単位で引導することで、保護者に依存することなく、安全に楽しく海を体験する仕組みを提供し、さらには、海難防止知識を持つライフセーバーが、海の知識や安全対策などを分かりやすく教えることで、今後に来た時に生かせる内容をふたに盛り込んでいる。

3.5 補足資料 -波及活動（外部メディア連携）-



Yahoo! ニュース



産経ニュース



時事ドットコム



その他のWEB媒体

運営会社	媒体名
株式会社小学館	DIME
株式会社産経デジタル	iza (イザ!)
ジョルダン株式会社	ジョルダンニュース!
株式会社講談社	現代ビジネス
株式会社ベストセラーズ	産経ニュース
株式会社スカラコミュニケーションズ	フレッシュアイ
株式会社サイトスコープ	とれまがニュース
株式会社イード	NewsCafe
株式会社読売新聞社	読売新聞オンライン
株式会社マビオン	マビオンニュース
ニフティ株式会社	@niftyビジネス
ぴあ株式会社	ウレぴあ総研
楽天株式会社	Infoseekニュース
株式会社プレジデント社	PRESIDENT Online
ビッグロブ株式会社	BIGLOBEニュース
株式会社時事通信社	時事ドットコム
株式会社ダウンゴ	ニコニコニュース
エキサイト株式会社	exciteニュース
株式会社朝日新聞社	朝日新聞デジタルマガジン&[and]
株式会社財経新聞社	財経新聞
アクトインディ株式会社	いこーよ
株式会社オールアバウト	All About NEWS

体験レポート



【参照元】 <https://future.iko-yo.net/experience/19076/>

3.6 補足資料 -制作および製作物-

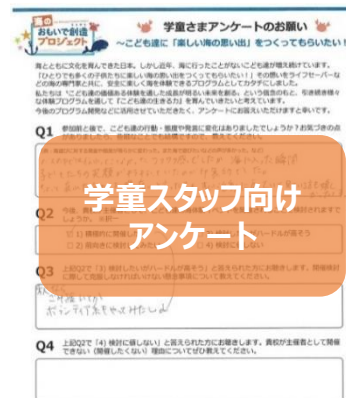


映像等



紙資料等

プログラム導入 紙芝居



3.7 補足資料 -WEBリニューアル (全体構成・デザインの更新) -

プログラム紹介ページ

実績紹介ページ



【参照元】 https://iko-yo.net/partners/uminohi_jp/memories